

豊かな緑を育むための 都市緑化植物ガイドライン

- 
- I 千代田区の緑地とガイドラインの概要…2
 - II 千代田区の植生…3
 - III 都市緑化植物の選択…5
 - 1. 千代田区の地域になじみ、市街地でも生育する植物を選びましょう…5
 - 2. 園芸文化を育てる栽培品種を活用しましょう…5
 - 3. 地域の代名詞になる植物を植えましょう…6
 - 4. 自然樹形が美しく、剪定が省け、豊かな緑量を形成する植物を活かしましょう…6
 - 5. 大高木となるため、慎重に活用する樹木…8
 - IV 豊かな都市緑地を形成するための方策…9
 - 1. 民有緑地…9
 - 2. 街路樹…9
 - 3. 街区公園…10
 - 4. 区道街路樹の再生更新…11
 - V 代表的な都市緑化植物一覧表…14
 - コラム 千代田区の代表的な植物…12



I 千代田区の緑地とガイドラインの概要

江戸時代末、江戸城を中心にした現在の「東京」は、世界で一番美しい庭園都市として、海外で紹介されていましたが、明治時代に入り、維新などの機運を背景に、皇居周辺以外の緑地の多くが失われてしまいました。

しかし同時にプラタナスやエンジュなど、多くの外来植物が都市緑化樹として導入され、特に第二次世界大戦後、減少した緑量を回復するために植栽され、その中でも強健で勝ち残った樹種は、大きくなり過ぎて樹木管理の負担になるなどの課題が出てきています。

さらに、建物が高層・連続化した市街地は植栽空間が限られ、日照条件なども含めて、植物の生育にとって制約された環境となっています。

また、公開空地などの緑地が増える一方で、個人の庭や路地裏の鉢植えなどの、最もプライベートな植物の存在が影を潜め、春や秋の七草などに対する、私たちの記憶も薄れています。

近年、ヒートアイランド現象などに対応して、植物に対する価値意識も変化しており、環境と共存・共生するためのふるさとの木や杜を造り、守るなど、地域性が強く問われてもいます。

本ガイドラインは千代田区の行政計画が目指す、豊かな緑の実現を図るために、本区の自然が育んできた植生^{※1}をふまえ、都市環境にふさわしい植物を選択し、期待される代表的な都市緑化植物として示すものです。

また、民有緑地・街路樹・街区公園などについて、これらの植物を活用して豊かな緑地を形成する具体例を示し、加えて、区道街路樹の現状と再生・更新について提言します。

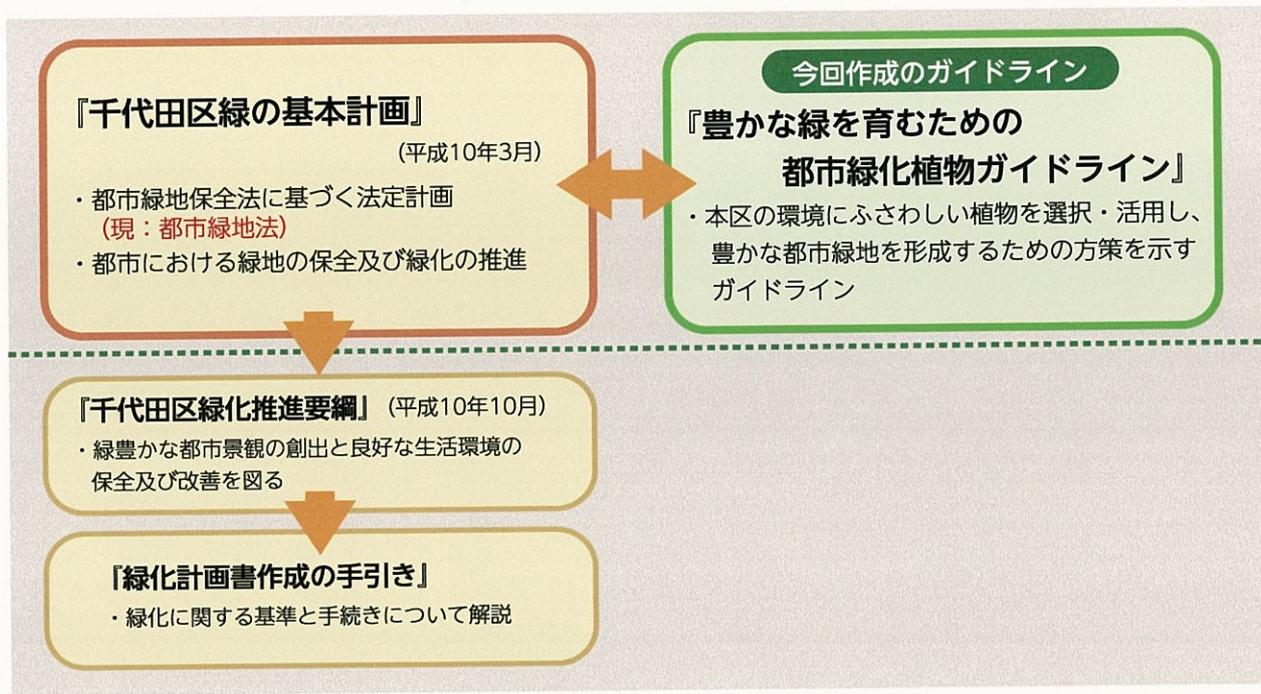
将来、これらの都市緑地が、その地域の植栽環境や、その地域に暮らし・働き・学ぶ多くの人たちになじみ、千鳥ヶ淵のソメイヨシノや皇居外苑のクロマツなどのように、本区を代表する植物に生育し、区全体を質の高い緑としてその増進を図っていくものです。

※1：植生＝地域に適合する一定植物の集合体



江戸を偲ばせる緑地空間（千鳥ヶ淵土手・北の丸公園）

本ガイドラインの位置づけ





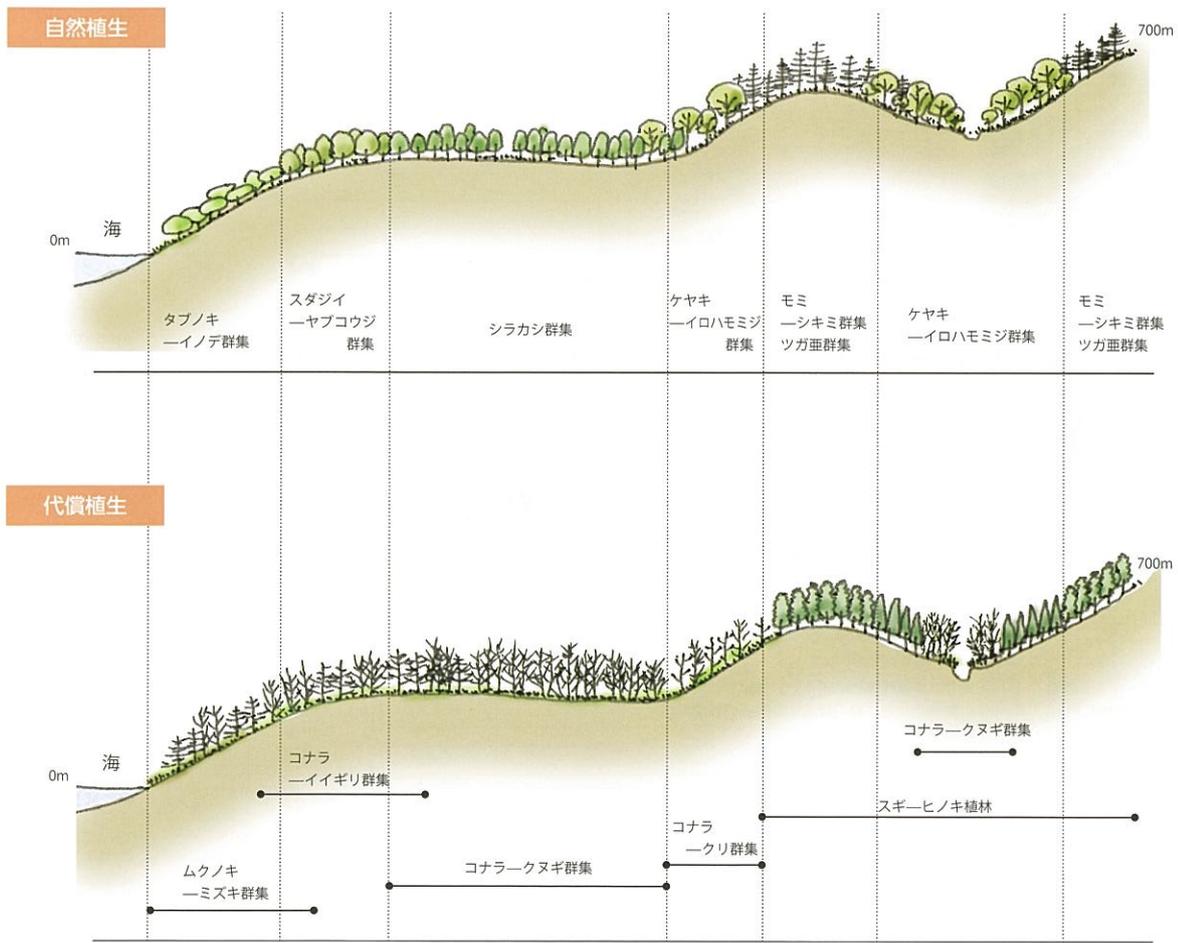
Ⅱ 千代田区の植生

縄文海進期にあたる約 4,000 年以前、本区の台地上は武蔵野の雑木林といわれる、コナラを中心とした樹林地でした。その後、気候の変動に伴い、温帯性常緑広葉樹の混在や優占、針葉樹の出現などを経て、約 1,000 年前にはマツの造林活動や稲作など、人為による植生への関与が顕著となります。稲などの特殊なものを除き、これら植物の多くは、東京の海拔 0m から 700m に出現しているヤブツバキクラス域^{※1}に含まれ、現状で、

本区に生育している植物から推定される植生にも重ね合うことができます。

そこで、これらの植生に含まれるものが、本区の緑地を構成する、基調になる植物といえます。

※1：ヤブツバキクラス域＝ヤブツバキを特徴的な種として植生を包括する植物の集合体



1. 溜池遺跡による縄文時代以降の植生史

主要な木本類		赤坂江の時代	赤坂泥炭地Ⅰの時代	赤坂泥炭地Ⅱの時代	水田の時代	溜池の時代
		6,000～4,000年前	4,000～2,000年前	2,000～1,000年前	1,000～500年前	500年前～
		縄文海進期	縄文海進後の海退期	湿地林の消滅	稲の栽培	江戸城外堀の整備
		内湾から汽水泥質干潟	泥炭地の湿地林	泥炭地の草本湿地	泥炭地の水田化	水田の溜池化
		温帯性落葉広葉樹林	常・落葉広葉樹林	常・落葉広葉樹＋針葉樹	マツ属の増加	マツ属の造林
針葉樹	イチイ属又はイヌガヤ属					
	ツガ科					
	ヒノキ科					
	マツ属複雑管束亜属				増加	急速拡大／植林
	モミ属				減少	
常緑広葉樹	アカガシ属				減少	稀化
	シイノキ属					
	ツバキ属					植栽利用？
	モチノキ属					植栽利用？
落葉広葉樹	エノキ属又はムクノキ属					
	カエデ属					植栽利用？
	クマシデ属又はアサダ属					
	クリ属					植栽利用？
	クルミ属					
	コナラ属			再出現	減少	減少
	サイカチ属近似種					植栽利用？
	トチノキ属		特有 分布			
	トネリコ属				消滅	
	ニレ属又はケヤキ属					
	ハンノキ属				消滅	

※ : 分布 : 卓越あるいは特有・特異な分布を示す種類。(出典:「地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡発掘調査報告書7-2 溜池遺跡1997」より作成)

2. ヤブツバキクラス域の植生と区内の自生植物一覧

区分	代表的な植生	植生の特徴	植生と重なる区内の自生植物 (*印は人為による植栽起源の可能性のある植物)			
			針葉樹	常緑広葉樹・常緑草本	落葉広葉樹・落葉草本	
自然植生	スタジイヤブコウジ群集 (常緑広葉樹林)	スタジイは関東地方を北限とし、常緑広葉樹林を形成する。林内は暗く、林床の植物は限られる。		スタジイ モチノキ ネズミモチ ヤツデ キツタ ベニシダ	アカガシ ヤブツバキ アオキ ヤブコウジ ビナンカズラ ジャノヒゲ	
	タブノキイノデ群集 (常緑広葉樹林)	タブノキは暖帯性の樹木で、東京では海岸沿いに生育する。林内は暗く、林床の植物は限られる。		タブノキ モッコク ヤツデ イノデ ジャノヒゲ	ヤブツバキ アオキ キツタ ベニシダ	エノキ ムクノキ
	シラカシ群集 (常緑広葉樹林)	東京都の植生分布で最も広い面積を占めるが断片的でまとまった面積として残っていない。	モミ*	スタジイ モチノキ ネズミモチ アオキ	アラカシ ヤブツバキ シュロ ヤツデ	エノキ ムクノキ
	モミシキミ群集ツガ亜群集 (常緑針葉樹林)	大部分がスギ・ヒノキ植林に入れ替わり、尾根筋などに残存する高木林。	モミ*	アカガシ		
	ケヤキイロハモミジ群集 (落葉広葉樹林)	沢筋の急斜面、湿性の高い場所に生育する。				ケヤキ* イロハモミジ*
代償植生	ムクノキミズキ群集 (落葉広葉樹林)	タブノキイノデ群集、或いはスタジイヤブコウジ群集の代償植生		シュロ ヤツデ	アオキ	エノキ ミズキ
	コナライイギリ群集 (落葉広葉樹林)	スタジイヤブコウジ群集の代償植生		タブノキ アオキ	モチノキ キツタ	イイギリ
	コナラクヌギ群集 (落葉広葉樹林)	ほぼシラカシ群集の代償植生、里山を代表する二次林群落で武蔵野の雑木林に該当する。関東ローム層由来の湿潤で肥沃なクロボク土上に生育する。外堀土手の野草類のほとんどは、本植生の構成種。		アズマネササ タチツボスミレ	スイカズラ	ヘクソカズラ
	コナラクリ群集 (落葉広葉樹林)	里山の薪炭林。				ヤマザクラ*

別冊資料1：溜池遺跡における大型植物化石から確認された植物

別冊資料2：区内の大径木 別冊資料3：皇居で見られる主な高木 別冊資料4：江戸城外堀に見られる野草類／(1) 自生種 (2) 外来種

別冊資料5：公共緑化植物／(1) 公園・緑地等で見られる種類 (2) 街路樹



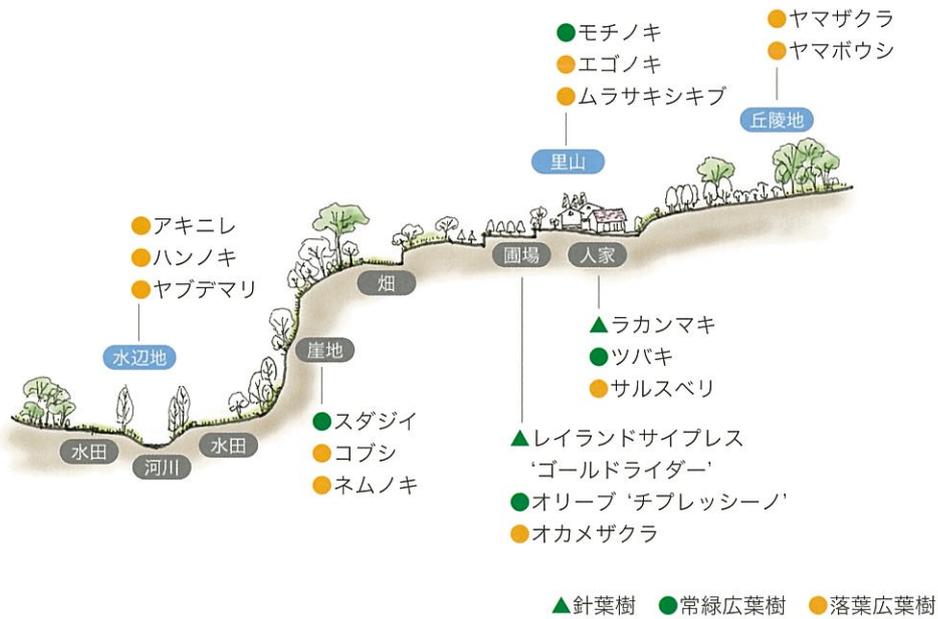
Ⅲ 都市緑化植物の選択

1. 千代田区の地域になじみ、市街地でも生育する植物を選びましょう

千代田区の地域になじむ植物は、ヤブツバキクラス域を構成する植物に一致すると推定されます。そこで、人と共生している里山や苗畑の栽培品種を含めた、豊富な植物種に注目し、これらの植物のなかで、どの植物が市

街地特有のビル風・日照障害・照り返しや、限られた緑地空間、土壌、人工地盤などの条件下でも元気に育つかどうか、それぞれの植栽環境に対する適性を検証し、選択します。

(参考) 立地ごとの植物種



2. 園芸文化を育てる栽培品種を活用しましょう

自然の植物は自身で再生・更新を繰り返しますが、都市緑化植物は植栽材料を育成する苗畑があり、商品として流通する経済活動とともに、再生・更新を繰り返します。

そのため、価値を高めるために「幹が真っ直ぐに立つ」、「枝葉が均等に張り、樹形が整う」、「限られた都市空間に収まる円柱形状に生育する」、「葉や花が美しい」、「耐病性がある」ものなどが品種として、栽培されています。これらの長所を積極的に活用することで、都市緑化植物が多様化し、園芸文化を育てることも期待できます。

品種として定着した花の美しい樹木



ツバキカンザクラ
(皇居東御苑)



苗畑



サラサモクレン
(千鳥ヶ淵公園)

3. 地域の代名詞になる植物を植えましょう

地域のポイントとなる緑地では、整った自然樹形で、葉や花や幹が美しく、それらの形や彩の組み合わせが、四季を映し、地域の息吹きを伝え、多くの人の感性に届く、その場所の代名詞となることが期待できる植物を選択します。

千代田区の花と木



ソメイヨシノ (千鳥ヶ淵)



クロマツ (皇居外苑)

4. 自然樹形が美しく、剪定が省け、豊かな緑量を形成する植物を活かしましょう



過管理の例/トウカエデ
(千代田区一番町)

市街地の限られた空間に適する都市型の緑化樹として、自然樹形が横に大きく葉張らずに、「縦の緑化空間に収まる樹形の樹種・品種」や、植生の樹冠を形成し日照を占有する高木と共生できる、「伸張が遅く耐陰性のある亜高木※1」を選択します。

自然樹形を保つために前者では樹高管理、後者では枝抜き程度の剪定で対応して自然

樹形を保ち、過管理※2の解消を目指します。

また、縦方向の緑化空間や日陰地に活用することで豊かな緑量形成を図ります。

※1：亜高木＝本ガイドラインの成木の樹高による区分

大高木／樹高15m以上、高木／樹高8m以上

亜高木／樹高5～8m

灌木／樹高3m以下、低木／樹高1.5m以下

※2：過管理＝同じ樹木を継続的に切り詰める剪定を指しています。成長と共に労力と処分枝が増え、自然樹形が損なわれ、葉数の増量も望めません。

1) 縦方向に着目した緑量増進

千代田区の地域特性として、多くの建物は縦にフロア面積を稼ぎ高層化しています。そこで、都市の緑量増進においても未利用な縦方向の空間に着目し、横に葉張るより、縦に緑量を稼げる樹形をした樹木の活用を図ります。

(1) 円柱形状樹 (ファスティギアータ・タイプの品種)



イタリアンサイプレス
'スウェンズ ゴールド'
(千鳥ヶ淵公園)
【針葉樹】



オウゴンモチ (團場)
【常緑広葉樹】



ケヤキ 'ムサシノ'
(千代田区三番町区道)
【落葉広葉樹】

これらは個体差を選別して品種としたもので、枝が直上し、縦に緑量が稼げるとともに、樹形のまとまりがよく剪定管理の省力化を図れます。そのため、街路樹や壁面緑化などの植栽材料として期待されています。栽培量が限られており、活用する場合は在庫の確認が必要です。在庫の確認は、地産地消を踏まえれば、建設物価本→(社)日本植木協会のホームページ→東京都植木農業共同組合などの順に行うことが合理的です。また、他の施設と競合するような場所の落葉広葉樹では、高さを15m以内で管理します。

針葉樹	アリゾナイトスギ 'ブルー アイス'	イタリアンサイプレス 'スウェンズ ゴールド'	ニオイヒバ 'ヨーロッパ ゴールド'
常緑広葉樹	オリーブ 'チプレッシーノ'	オウゴンモチ	
落葉広葉樹	イギリスナラ 'ファスティギアータ'	ケヤキ 'マサコ'	ケヤキ 'ムサシノ'
	サトザクラ 'アマノガワ'	テルテモモ	オカメザクラ
			モクゲンジ 'ファスティギアータ'

(2) 垂高木（成木の樹高が5～8m）でも緑量が確保でき、円柱形状に近い株立ち仕立ての樹木



アラカシ
【常緑広葉樹】



エゴノキ
【落葉広葉樹】



ヤマボウシ
【落葉広葉樹】

常緑広葉樹	アラカシ	ゲッケイジュ	ソヨゴ
落葉広葉樹	アオダモ	エゴノキ	ナツツバキ
	ヤマボウシ	リョウブ	イロハモミジ

(3) 円柱形状に近い、刈り込んでローソク仕立とされる樹木



コウヤマキ
【針葉樹】



モチノキ
【常緑広葉樹】



マгноリア
'ワダス メモリー'
【落葉広葉樹】

針葉樹	イヌマキ	ナギ	カヤ
	レイランドサイプレス	'ゴールド ライダー'	
	コウヤマキ		
常緑広葉樹	オウゴンモチ	モチノキ	
	ガビサンヤマボウシ	トキワマンサク	
落葉広葉樹	マгноリア 'ワダス メモリー'		

2) 日陰地

建物や高木下で日照が不十分な街路や公園などでも、耐陰性のある垂高木を活用し、緑量の増進を図ります。



カヤ
【針葉樹】



カクレミノ
【常緑広葉樹】



イロハモミジ
【落葉広葉樹】

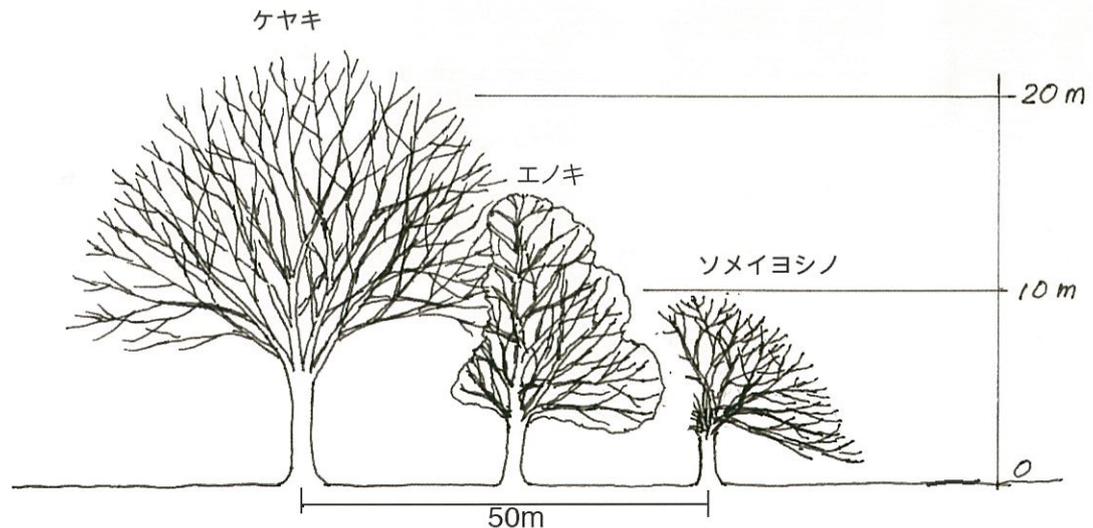
針葉樹	アスナロ	イチイ	イヌマキ	カヤ
常緑広葉樹	カクレミノ	ソヨゴ	クロガネモチ	
	ヒメユズリハ			
落葉広葉樹	カエデ類	エゴノキ	ヤマボウシ	

5. 大高木となるため、慎重に活用する樹木

将来的に大高木に生育する樹木の利用は、他の植物に対する被圧、植栽空間の配分、管理樹高などを検討し、慎重に活用を図る必要があります。

	針葉樹	常緑高木	落葉高木
植生が培ってきた樹冠の高さを突出する外来種	センペルセコイア メタセコイア ラクウショウ ヒマラヤスギ	ホソバタイサンボク	アメリカフウ イチョウ シンジュ トウカエデ プラタナス ユリノキ
日本の自生種であるが分布域の異なる樹木		クスノキ クロガネモチ マテバシイ	カツラ
他の樹木に競り勝ち、自然植生の樹冠を形成する樹木	スギ サワラ ヒノキ	シラカシ タブノキ	エノキ ケヤキ クヌギ クリ コナラ ムクノキ
樹林形成の始まりに急激に生育する向日性の樹木	クロマツ	シマトネリコ	アカメガシワ イイギリ カラスザンショウ サクラ類 ミズキ

被圧の例



上記の図はケヤキが他の樹種を被圧している様子を表しています。ケヤキには「アオメ系」、「アカメ系」と呼ばれる2つの系統があり、アオメ系は図のように太い枝が横に張り出し、葉張りを大きく取るため他の植物を被圧してしまいます。また、枯れ枝の落下が懸念されます。

そこで、ケヤキを植栽する場合には、多数の細い枝が斜上し、樹形が安定し落枝も少ないアカメ系から園芸品種として作出された「武蔵野」や「マサコ」、あるいはアカメ系の優良個体クローンを活用するとよいでしょう。



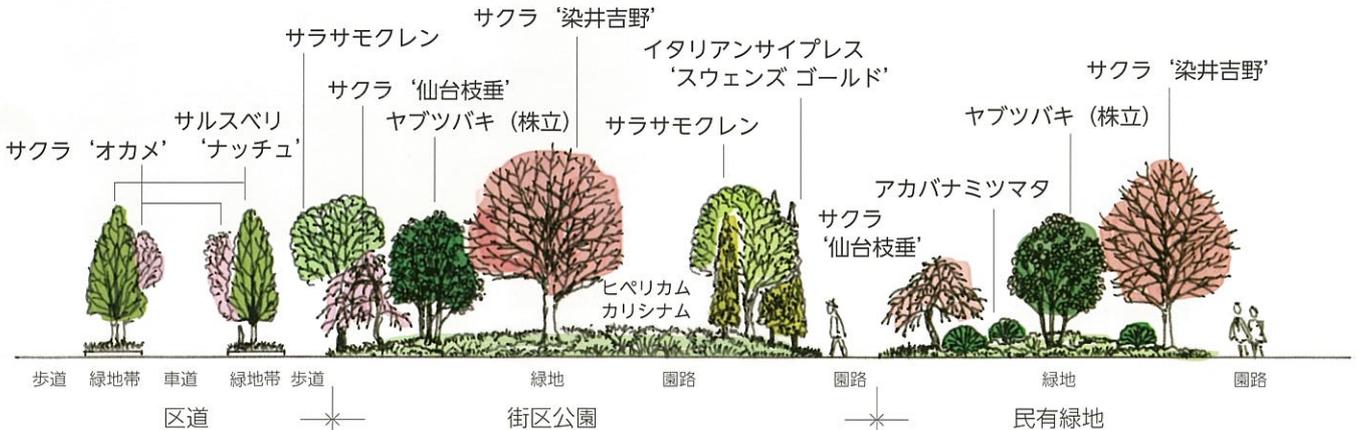
IV 豊かな都市緑地を形成するための方策

1. 民有緑地

公開空地などの民有緑地には、隣接する公園や街路などの緑と、樹種の配植や植物の階層構造、日照配分などを一体としてとらえ、建物を含めた開発区域などが地域

に溶け込んだ、まとまりのある緑地空間となるよう努めます。

緑の配分



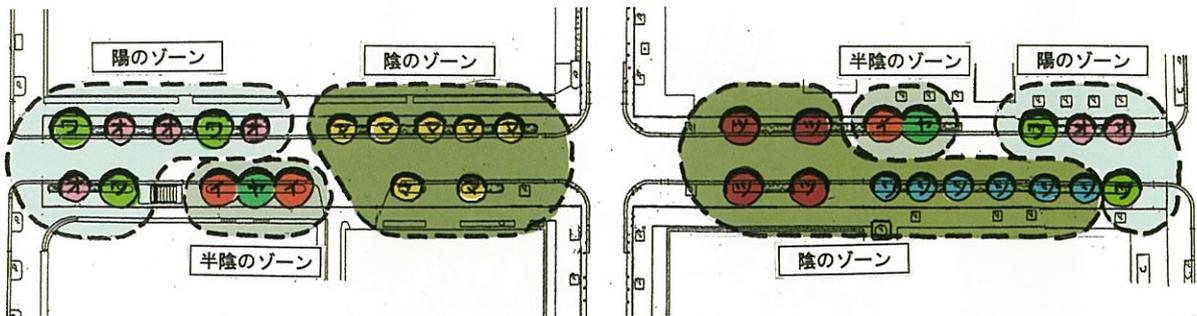
2. 街路樹

区道の多くは区民の身近な生活道路であり、街路樹も線的に統一された誘導を主とした見え方だけではなく、周辺緑地との調和、常緑・落葉・針葉樹などの樹形や、木々

の葉や花色などの対照を付加し、四季を通して豊かな表情を持った空間形成を目指します。

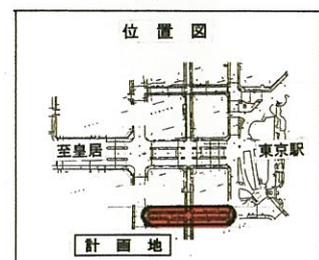
モデルプラン

丸の内仲通りに交差する区道の街路樹整備 (提案)



凡 例

陽のゾーン		半陰のゾーン		陰のゾーン	
記号	樹種名	記号	樹種名	記号	樹種名
オ	オリーブ 'テフレッシー'	イ	イロハモミジ (株立)	マ	イヌマキ (ローソク仕立)
ワ	マクガリア 'ワダスメリー'	ヤ	ヤマホウシ (株立)	ソ	ソヨゴ (雌株 株立)
				ツ	ヤブツバキ (株立)



3. 街区公園

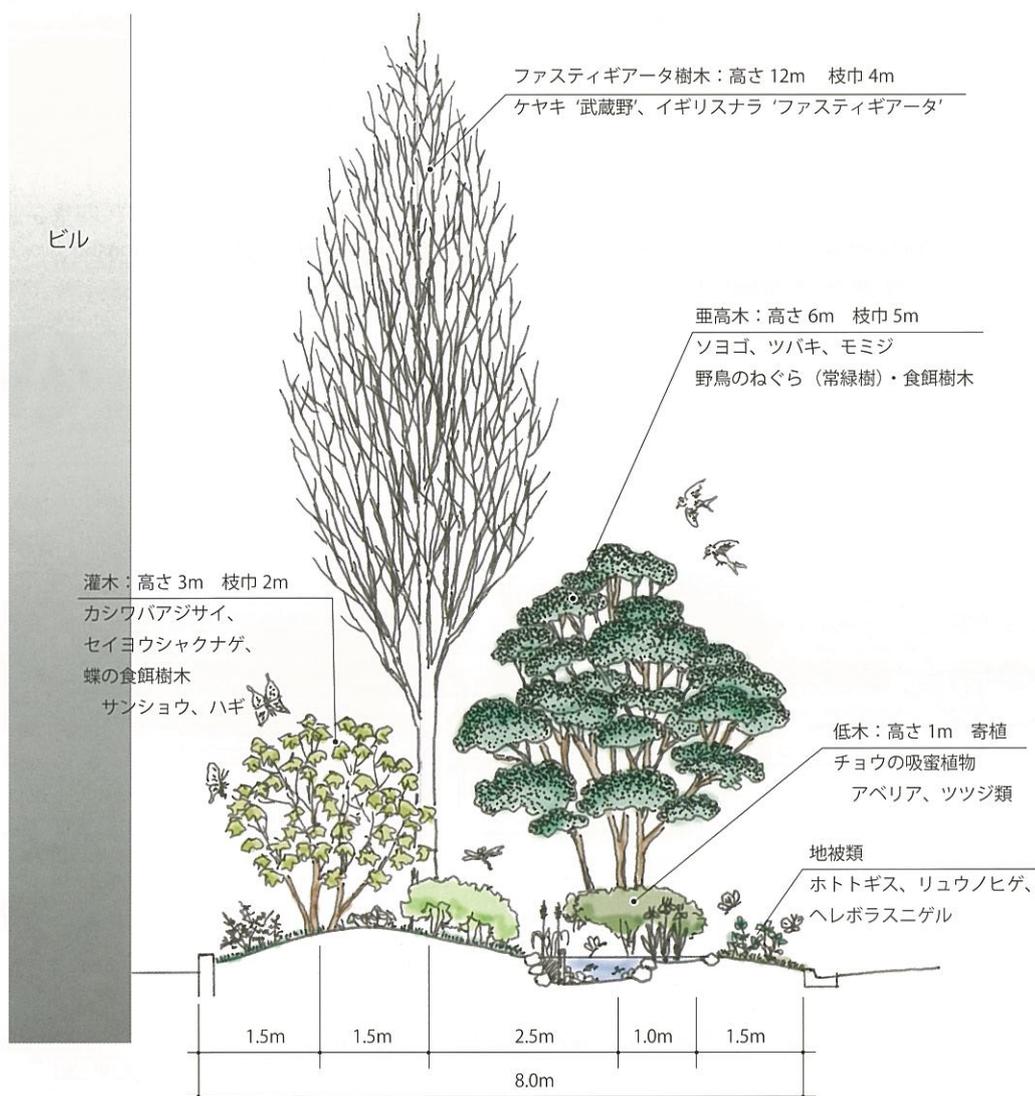
日照条件が整った一角に、緑の階層作りを可能にする緑地帯幅を確保し、草原や藪、樹木の幹や枝先など、それぞれの生物の生息環境に配慮するなど、街区公園では「緑の階層※¹作り」を心掛けます。

また、すでに生育している大高木で、建物とともに足元の日照を奪い、子供たちが遊ぶ広場を鬱蒼と覆っている樹木は更新し、緑の階層を形成する樹林地に再生することを目指します。

※ 1：緑の階層＝気候や地形、地質などから一定の植物により樹林が形成されますが、植物は高木・亜高木・灌木・低木・地被類と空間の高さを棲み分けています。同じように、昆虫や微生物などの動物も、それぞれの階層に棲み分け、全体として生態系を維持しています。緑の階層は、なかでも植物の階層構造を指しています。



大高木に囲まれて貧弱になった植栽／クス、ケヤキ、イチョウ、ソメイヨシノ (神田児童公園)



4. 区道街路樹の現状と再生・更新

東京の街路樹は約140年の歴史があり、区道街路樹の多くを占めるイチヨウやトウカエデなどは私たちの目になじんだものになっています。しかし、これらは外来植物であり、結果的に本区に潜在する自然植生※1が形成する林冠を突き抜ける大高木に成育します。そのため、本来の自然樹形を留めているものは少なく、市街地では伸張した幹や、枝をその都度切り詰めることから、緑の役割を果たせないばかりか、過管理との指摘を受けるよ

うになっています。

そこで、市街地の限られた空間に適する都市型の緑化樹などに更新を図り、縦方向に着目したり、植栽間隔を密に配植できる樹種を採用することで、緑量の増進を期待することが出来ます。

※1：本区に潜在する自然植生＝タブノキ・イノデ群集
林冠を形成する樹高 15～20 m

区道街路樹の現状（2010年12月 道路公園課調べ）

区道街路樹の現状

		百分率 = (路線数 / 全路線 (43路線)) × 100
1. 植物の由来：	① 帰化植物	77.3%
	② 植生が異なる日本の地域から導入された植物	9.1%
	③ 東京のヤブツバキクラス域の植物	13.6%
2. 成木の樹高：	① 大高木 (樹高 15 m 以上)	75.0%
	② 高木 (樹高 8 m ~ 15 m)	9.1%
	③ 亜高木 (樹高 5 m ~ 8 m)	15.9%
3. 倒木、落枝：	① 小枝が枯れこむなど、落枝があり、管理上注意が必要なもの	34.1%
	② 落枝等が少ないもの	65.9%
4. 生育空間：	① 歩道幅員 2.4 m 以下	27.3%
	② 歩道幅員 2.5 m ~ 3.5 m	56.8%
	③ 歩道幅員 3.5 m 以上 (公開空地上を含む)	13.6%
5. 日照：	① 建物などに囲まれ、その谷間にある陰地	31.8%
	② 幅員が広い、又は南北の通り、建物などが4階建て程度などの半陰地	43.2%
	③ 公園や公開空地に隣接し、開けていて良好	25.0%
6. 土量の条件：	① T-1 単独樹あるいは近似のもの	54.5%
	② T-2 単独樹あるいは近似のもの	11.4%
	③ 緑地帯を伴う連続樹あるいは近似のもの	34.1%
7. 剪定管理：	① 切り詰め剪定 (剪定者の手の届く範囲で太い枝を切り詰める) * 木立の美観が損なわれる。太枝から吹いた不定芽が伸張する都度に切り詰める 必要があり、管理手間がかかる。	65.9%
	② 切り戻し剪定 (対象の自然樹形を崩さずに、木形を小さく切り戻す) * おおよそ 20 年生以上で、萌芽・伸張力の強い樹種では太枝と枝先のバランスが 崩れて木立の美観が損なわれ、やがて、切り詰め剪定になりやすい。	2.3%
	③ 整枝剪定 (対象の自然樹形で不要な小枝を剪定する) * 対象樹木の自然樹形が保たれ、木立の美観が保たれる。 また、管理の省力化が図れる。	31.8%
8. 樹勢：	① 樹勢が損なわれているもの	54.5%
	② 樹形が損なわれ、生育が萎縮しているもの	40.9%
	③ 健全に生育しているもの	4.5%

* 新たに設置された路線などを除く 43 路線の実態調査に基づきます。

千代田区の代表的な植物

本区の江戸城内堀内、内堀・外堀の土手筋には、自然度の高い植物が生育しています。これらの植物が私たちにとってより身近なものとなることが望まれます。



① イチョウ (北の丸公園)



⑤ イヌマキ
(ホテルニューオータニ)



② ケヤキ (清水谷公園)



⑥ カヤノキ
(ホテルニューオータニ)



③ ムクノキ (千鳥ヶ淵)



㊦ オドリコソウ



④ トウカエデ (千鳥ヶ淵)



㊧ ツルボ



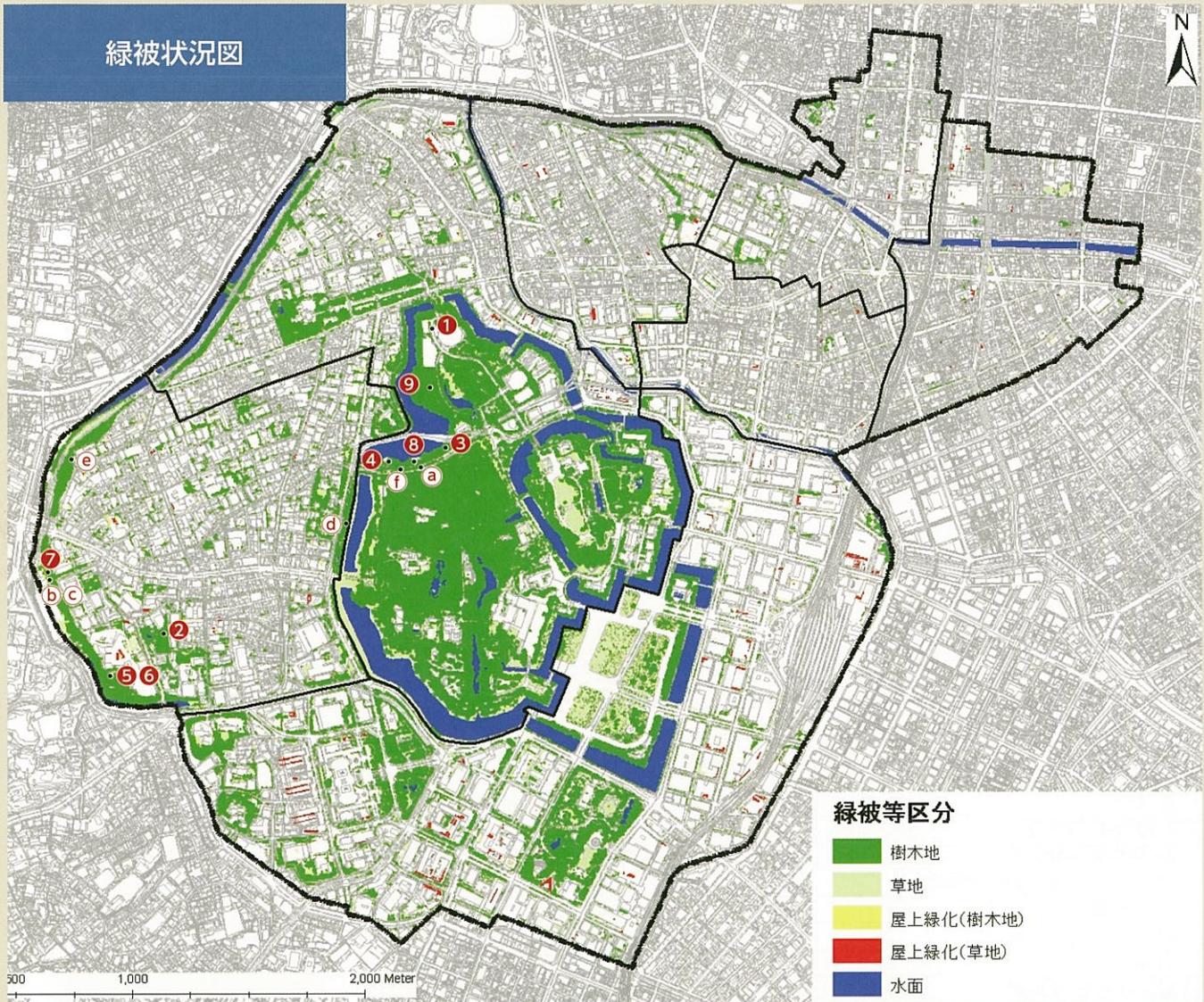
7 クロマツ (真田濠緑地)



8 タブノキ (千鳥ヶ淵)



9 トチノキ (北の丸公園)



㉔ ツリガネニンジン



㉕ ノアザミ



㉖ オニユリ



㉗ クサフジ



V 代表的な都市緑化植物一覧表

代表的な都市緑化植物は、本区の環境に適合しているもの、なじむことが想定されるものを前提として選択しています。また、草本類などでは個人の好みが強反映されるかもしれません。それらの思いは都市緑化推進の原動力となり、新たな樹種を生み出すなどの園芸文化につながることも期待されます。なお、一部の緑化植物が流通から消えてしまう、あるいは、気候変動によっては

植生そのものが大きく遷移してしまうこともありえます。それらの営為や自然環境の影響によって、本表に掲載した植物は流動的です。植物の環境適正や配植、植栽基盤や色彩、植物の寿命など、詳細な提言については「千代田区緑量増進ガイドライン検討委員会報告（平成23年3月）」を参照してください。

期待される代表的な都市緑化植物一覧

番号	植物名	針常落区分	樹高区分	利用空間		
				都市公園	街路樹	民有地
1	アカマツ	針葉樹	8m以上	○		
2	アスナロ	針葉樹	8m以上	○		
3	アリゾナイトスギ 'ブルーアイス'	針葉樹	8m以上			○
4	イタリアンサイプレス 'スウェンズゴールド'	針葉樹	8m以上	○		○
5	イヌマキ	針葉樹	8m以上		○	○
6	クロマツ	針葉樹	8m以上	○		
7	コウヤマキ	針葉樹	8m以上	○	○	
8	コノテガシワ 'エレガンティシマ'	針葉樹	8m以上			○
9	ツガ	針葉樹	8m以上	○		
10	ヒノキ 'クリプシー'	針葉樹	8m以上			○
11	モミノキ	針葉樹	8m以上	○		
12	レイランドサイプレス 'ゴールドライダー'	針葉樹	8m以上			○
13	ウバメガシ	常緑樹	8m以上	○		
14	クロガネモチ	常緑樹	8m以上	○	○	○
15	スタジイ	常緑樹	8m以上	○		
16	タイサンボク	常緑樹	8m以上	○		
17	タブノキ	常緑樹	8m以上	○		
18	ナナミノキ	常緑樹	8m以上	○		
19	モチノキ	常緑樹	8m以上		○	○
20	ヤマモモ	常緑樹	8m以上	○	○	○
21	アキニレ	落葉樹	8m以上	○	○	
22	アメリカカフウ 'ロタンディローバ'	落葉樹	8m以上		○	
23	エンジュ	落葉樹	8m以上		○	
24	カエデ類	落葉樹	8m以上	○		○
25	カツラ	落葉樹	8m以上	○	○	
26	ケヤキ 'マサコ'	落葉樹	8m以上		○	
27	ケヤキ 'ムサシノ'	落葉樹	8m以上		○	
28	サクラ類 (カスミザクラなど)	落葉樹	8m以上	○	○	
29	シデ類	落葉樹	8m以上	○		○
30	セイヨウシナノキ	落葉樹	8m以上	○	○	
31	トチノキ	落葉樹	8m以上	○		
32	ハナモモ 'テルデ'	落葉樹	8m以上		○	○
33	ベニバナトチノキ	落葉樹	8m以上	○	○	
34	マгноリア 'ワダスメモリー' など	落葉樹	8m以上	○	○	
35	ユリノキ 'ファスティギアータ'	落葉樹	8m以上	○	○	
36	イチイ	針葉樹	5～8m	○		
37	カヤ	針葉樹	5～8m	○	○	
38	ジュニペルス 'ブルーヘブン'	針葉樹	5～8m			○
39	ニオイヒバ 'ヨーロッパゴールド'	針葉樹	5～8m			○
40	オウゴンモチ	常緑樹	5～8m		○	○
41	オガタマノキ	常緑樹	5～8m	○	○	
42	オリーブ 'チブレッシーノ' など	常緑樹	5～8m		○	○
43	カクレミノ	常緑樹	5～8m		○	○
44	カラタネオガタマ 'ポートワイン'	常緑樹	5～8m			○

番号	植物名	針葉落区分	樹高区分	利用空間		
				都市公園	街路樹	民有地
45	キンモクセイ	常緑樹	5～8m	○	○	○
46	サカキ	常緑樹	5～8m	○		
47	トキワマンサク	常緑樹	5～8m			○
48	ヒメユズリハ	常緑樹	5～8m		○	
49	マгноリア 'リトル ジェム'	常緑樹	5～8m	○		○
50	ミヤマガンショウ	常緑樹	5～8m	○	○	
51	モッコク	常緑樹	5～8m			○
52	ヤブツバキ	常緑樹	5～8m	○		○
53	ロドレイア ヘンリー	常緑樹	5～8m	○		
54	アオハダ	落葉樹	5～8m			○
55	アメリカザイフリボク (ジュンベリー)	落葉樹	5～8m		○	○
56	アメリカヒトツバタゴ	落葉樹	5～8m			○
57	イロハモミジ	落葉樹	5～8m	○	○	○
58	エゴノキ	落葉樹	5～8m	○	○	○
59	エゴノキ 'ピンク チャイム'	落葉樹	5～8m		○	○
60	オカメザクラ	落葉樹	5～8m	○	○	○
61	コヒガンザクラ	落葉樹	5～8m	○	○	
62	サラサモクレン	落葉樹	5～8m	○	○	
63	サルスベリ 'タスカローラ' (赤桃花)	落葉樹	5～8m	○	○	○
64	サルスベリ 'ナツチェ' (白花)	落葉樹	5～8m	○	○	○
65	サルスベリ 'マスコギー' (桃花)	落葉樹	5～8m	○	○	○
66	ショウジョウノムラモミジ	落葉樹	5～8m		○	○
67	シラキ	落葉樹	5～8m	○		○
68	セイヨウシデ 'ファスティギアータ'	落葉樹	5～8m		○	
69	ハナミズキ 'ステラ'	落葉樹	5～8m	○	○	○
70	ヒトツバタゴ	落葉樹	5～8m	○		
71	ベニスモモ 'ファスティギアータ'	落葉樹	5～8m	○	○	
72	マユミ	落葉樹	5～8m			○
73	マンサク	落葉樹	5～8m	○		○
74	ヤマボウシ類	落葉樹	5～8m	○	○	
75	リョウブ	落葉樹	5～8m			○
76	コノテガシワ 'ローズダリス'	針葉樹	3m以下			○
77	ニオイヒバ 'グリーンコーン'	針葉樹	3m以下	○		○
78	ニオイヒバ 'スマラグ'	針葉樹	3m以下			○
79	キシケイ	常緑樹	3m以下	○		○
80	ギンバイカ	常緑樹	3m以下			○
81	サザンカ類	常緑樹	3m以下		○	○
82	シャリンバイ	常緑樹	3m以下	○	○	
83	セイヨウシャクナゲ類	常緑樹	3m以下	○		○
84	セイヨウヒイラギ 'サニー フォスター'	常緑樹	3m以下			○
85	タチカンツバキ	常緑樹	3m以下	○	○	○
86	ハクサンボク	常緑樹	3m以下	○		○
87	ビブナム ティヌス	常緑樹	3m以下			○
88	ヒメイチゴノキ	常緑樹	3m以下			○
89	ヒメシャリンバイ	常緑樹	3m以下			○
90	ヤボンノキ	常緑樹	3m以下			○
91	イボタノキ	落葉樹	3m以下	○		
92	トサミズキ	落葉樹	3m以下	○		
93	ノリウツギ	落葉樹	3m以下			○
94	バイカウツギ	落葉樹	3m以下			○
95	ブツレア	落葉樹	3m以下			○
96	ミツマタ	落葉樹	3m以下			○
97	カナダトウヒ 'コニカ'	針葉樹	1.5m以下			○
98	サワラ 'フィリフェラ オーレア'	針葉樹	1.5m以下	○		
99	ハイビャクシン	針葉樹	1.5m以下			○
100	ファイリヒメアスナロ	針葉樹	1.5m以下			○
101	アオキ	常緑樹	1.5m以下	○		
102	フクリンアオキ	常緑樹	1.5m以下	○		○
103	アゼビ 'クリスマス チェアー'	常緑樹	1.5m以下			○
104	アベリア	常緑樹	1.5m以下	○		
105	アベリア 'ホープレイズ'	常緑樹	1.5m以下			○

番号	植物名	針常落区分	樹高区分	利用空間		
				都市公園	街路樹	民有地
106	イヌツゲ 'ゴールデン ジェム'	常緑樹	1.5m 以下			○
107	カンツバキ	常緑樹	1.5m 以下	○	○	○
108	カンツバキ '瀬戸白'	常緑樹	1.5m 以下	○	○	○
109	サツキツツジ	常緑樹	1.5m 以下	○	○	○
110	ヒペリカム 'ヒデオード'	常緑樹	1.5m 以下	○		
111	ヒラドツツジ	常緑樹	1.5m 以下	○	○	
112	ヤツデ	常緑樹	1.5m 以下			○
113	アオシダレモミジ	落葉樹	1.5m 以下	○		○
114	アジサイ類	落葉樹	1.5m 以下	○		○
115	ハギ類	落葉樹	1.5m 以下	○		○
116	ヒメウツギ	落葉樹	1.5m 以下			○
117	ベニシダレモミジ	落葉樹	1.5m 以下	○		○
118	ヤマブキ	落葉樹	1.5m 以下	○		○
119	ユキヤナギ	落葉樹	1.5m 以下	○		○
120	アガパンサス類	常緑宿根草	地被類	○		○
121	オオバジャノヒゲ	常緑宿根草	地被類	○		
122	キチジョウソウ	常緑宿根草	地被類	○		○
123	シャガ	常緑宿根草	地被類	○		○
124	ジャノヒゲ (リュウノヒゲ)	常緑宿根草	地被類	○		○
125	トリトマ	常緑宿根草	地被類			○
126	ヒメツルソバ	常緑宿根草	地被類			○
127	ピンカ類	常緑宿根草	地被類			○
128	ヘレボラス類	常緑宿根草	地被類			○
129	マツバギク '麗晃'	常緑宿根草	地被類	○		○
130	ヤブラン	常緑宿根草	地被類	○		
131	イソギク	落葉宿根草	地被類			○
132	ギボウシ類	落葉宿根草	地被類	○		○
133	シュウカイドウ	落葉宿根草	地被類			○
134	ノシバ	落葉宿根草	地被類	○		○
135	ハメロカリス類	落葉宿根草	地被類	○		○
136	ミセバヤ	落葉宿根草	地被類			○
137	コトネアスター類	常緑樹	地被類	○		○
138	コバノランタナ	常緑樹	地被類			○
139	タイム類	常緑樹	地被類			○
140	ツルマサキ	常緑樹	地被類			○
141	ニシキテイカ	常緑樹	地被類			○
142	ヘデラ カナリエンシス	常緑樹	地被類	○		
143	ヘデラ ヘリックス	常緑樹	地被類	○		○
144	ローズマリー	常緑樹	地被類			○
145	ロニセラ ニティダ	常緑樹	地被類			○
146	イッサイサルスベリ (匍匐性)	落葉樹	地被類			○
147	ナツミカン	常緑樹	果実木			○
148	ピラカンサ類	常緑樹	果実木			○
149	ナツメ	落葉樹	果実木			○
150	ヒメリンゴ	落葉樹	果実木		○	○
151	カロライナジャズミン	常緑樹	蔓性花木			○
152	クレマチス アーマンディ	常緑樹	蔓性花木			○
153	スイカズラ	常緑樹	蔓性花木			○
154	テイカカズラ	常緑樹	蔓性花木	○		
155	モッコウバラ	常緑樹	蔓性花木			○
156	ツキヌキニンドウ	落葉樹	蔓性花木			○
157	ツルウメモドキ	落葉樹	蔓性花木			○
158	ナツツタ	落葉樹	蔓性花木	○		
159	ノウゼンカズラ	落葉樹	蔓性花木			○
160	フジ	落葉樹	蔓性花木	○		○

注) 太文字は推奨植物を示す